

小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名 市としてPFAS汚染対策に取り組むべき

質問要旨 多摩地域のPFAS汚染を明らかにする会が行った多摩地域住民の血液検査で、発がん性が疑われ、第二のダイオキシンとも評される有機フッ素化合物PFASが高濃度で検出されました。検査を受けた87名中74名の血液から、PFAS7種類で合計20ng/mlというアメリカでの指標値を超えるPFASが検出され、不安が広がっています。87名の多くは国分寺市民でしたが、私も含め小平市民も血液検査に参加しており、私の周辺で参加した小平市民全員から、2021年に環境省が実施した全国119名の血液検査での平均値6.1ng/mlを超える濃度のPFASが検出され、上水本町6丁目に住んでいる方で35ng/mlを超える方もいました。市民の不安に応えるために市として取組ができないか、お聞きします。

1. PFAS問題に関して、今年に入ってから市民からの問い合わせや意見、要望は寄せられていますか。あれば、件数と内容をお教えてください。
2. 市として、市民の血液中のPFAS濃度の検査はできないでしょうか。
3. 東京都水道局のホームページによると、昨年7～9月に小川給水所では20ng/l、上水新町2、3丁目に給水している国分寺北町給水所では6ng/lのPFOS及びPFOAが浄水施設出口での水質として検出されています。これらの値は、日本で設定されているPFOSとPFOAを合わせて50ng/lという基準値よりは低いものの、アメリカで昨年6月に示されたPFOSは0.02ng/l、PFOAは0.004ng/l以下という水道水の目標基準値より高い値です。また、2020年3月以降、地下水の取水が停止された東恋ヶ窪配水所からの水のPFOS、PFOAの濃度は、5ng/l以下となっています。小川給水所や国分寺北町給水所でも、地下水の取水は停止するよう東京都に求めるべきではないでしょうか。
4. PFASへの対応について、東京都とどのような情報共有を行っていますか。
5. 令和3年度小平市一般会計決算附属書類では、飲用に供する井戸等への検査件数についての記載がありますが、市内の飲用井戸について、市としてPFASの検査をするべきではないでしょうか。
6. 市内の震災対策用井戸の数と、その水質検査項目にPFOSとPFOAを加えることはできないか、お答えください。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和5年 2月16日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 水口 かずえ